

広島空港に“核のない世界へ 広島メキシコ友好壁画”が完成しました

広島空港の建物東側に“核のない世界へ 広島メキシコ友好壁画”が完成し、10月15日（水）に完成披露式典が執り行われました。

当日10時30分より壁画前においてテープカットが行われました。その後、空港から程近い広島エアポートホテルにおいて開催された式典では、最初に壁画の企画提案者であるグティエレス 一郎・実兄弟 兄 一郎氏から主催者を代表して挨拶があり、続いて、来賓のメルバ・プリーア メキシコ大使の挨拶、山根 広島県副知事による湯崎知事のメッセージ代読後には、菅 蒲田 在広島メキシコ名誉領事（マツダ㈱会長、当親善協会会長）、壁画を描いたアドリー・デル・ロシオ、カルロス・アルベルト・GH姉弟 姉アドリー氏、日本被団協 箕牧代表委員、広島県被団協 佐久間理事長、ピースポート/ICAN 川崎代表の各氏より、それぞれお祝いのスピーチが行われました。

式典後には、関係者が参加して記念懇親会が開催され、完成を祝いました。

今年、被爆80年を迎え、広島の玄関口である広島空港にこの壁画が描かれたことに大きな意義を感じています。この壁画には、広島とメキシコの共通の願いが込められており、メキシコ、グアナフアト州との友情をさらに深めるとともに、広島から世界へ、その込められたメッセージをいつまでも発信し続けてくれることを願っています。

皆様、広島空港をご利用の際には、是非壁画をご覧ください。



完成した“核のない世界へ 広島メキシコ友好壁画”



壁画完成を祝うテープカット



完成披露式典：左から企画提案者のグティエレス 一郎・実 兄弟、壁画家 アドリー・デル・ロシオ、カルロス・アルベルト・GH 姉弟